

No.9 多発しているトラック - はさまれ巻き込まれの死亡災害事例（2022年）

2022 年 発 生 月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故 の型 コー ド	労 働 者 規 模
12	8 ～ 10	雪捨て場において、ダンプカー（最大積載量2トン）により排雪作業を行っていた。ダンプカーが雪のためスタックしたため、別のダンプカー（同4トン）によりロープで牽引することとした。その準備作業のため、両ダンプカーの間に立ち入り、後進するダンプカーを誘導していたところ、ダンプカー前部と後進するダンプカー後部の間で胸部を挟まれた。	030106	221	7	1 ～ 9
12	12 ～ 14	被災者が村道の拡幅区間において、木材を積んだ連結式の大型トレーラーの牽引車と被牽引車の連結具の間に挟まれている状態で発見された。被災者は、進行方向に7度～8度の上り傾斜に停車した大型トレーラーの連結作業を一人で行っていた。	040301	221	7	10 ～ 29
10	10 ～ 12	被災者が工事現場の車両誘導業務を行っていたとき、現場内にあった2台の車両を退出させ、その箇所にトレーラーを搬入させた後、一旦場外に退出させた車両（2トン積トラック）が駐車箇所に向かおうと公道を後退してきたところ、公道上にいた被災者はそれに気が付かず背面から轢かれた。	170201	221	7	0
10	8 ～ 10	事業場Aは物流センターの構内物流業務一式を受託する事業場Bの構内下請。トラックバースにおいて、荷卸しに来た事業場Cのバンボデー13tトラックが後進でバースに接車し、下車した運転手が入出庫シャッターを上げた時（接車約2分後）、車両背面とプラットホーム端部側面との間にはさまれている被災者を発見した。意識がなく搬送先病院で死亡。	050101	221	7	30 ～ 49

9	10 ～ 12	4 t のダンプトラックの荷の載せ替え作業時、駐車のために後進して いたダンプトラックの進路に被災者が進入し、停車していたドラグ ショベルとの間に挟まれて被災したもの。	030106	221	7	1 ～ 9
8	10 ～ 12	被災者は、事業場Aに派遣され同社の指示のもと、クリーンセンター 内で一般廃棄物をピット内へ投棄する作業を行っていた。被災者は投 棄作業のためピット開口部付近でパッカー車の監視業務を行っていた が、何らかの原因でパッカー車のテール部に挟まれ、挟まれたことに 気が付いた運転手がテールを再び上昇させたところ、支えを失った被 災者が8メートル下のピットへ転落したもの。	150101	221	7	30 ～ 49
8	14 ～ 16	コンクリートミキサー車の回転ドラム内で、ドラムの内側に付着した コンクリート片のはつり作業に、被災者が単独で従事していた。はつ り箇所的位置を調整するために、有線式リモートコントローラーをド ラムに持ち込んで作業していたところ、何らかの理由でコントロー ラーのダイヤルが高速モードとなり、ドラム内のスクリーウ刃に巻き 込まれ死亡したものと思われる。	040301	221	7	1 ～ 9
6	2 ～ 4	荷の積込後、貨物自動車を運転して発進しようとした被災者が、出荷 口のシャッターが開いていることに気づき、シャッターを閉めるた め、貨物自動車から降り、プラットフォームに登ろうとしたところ、斜 面を後方に逸走した貨物自動車とプラットフォームの間に胴体部を挟ま れたもの。	010109	221	7	1 ～ 9
6	6 ～ 8	被災者は単独でダンプトラック（最大積載量6.3トン）の作業開始 前点検を行っていた。運転席を離れて荷台にいたときに当該トラック が後進しだした。その後、地上で壁にもたれかかっている状態で発 見された。周辺は壁に向かって下り勾配であった。当該トラック後部 と壁との間は約30センチメートルであった。当該トラックの原動機 は稼働させたまま、ギヤはニュートラル、サイドブレーキは引かれた 状態であった。	150102	221	7	30 ～ 49

5	16 ～ 18	本件事業場は、ガソリンスタンドに隣接する自動車整備工場である。 ダンプトラック荷台の油圧シリンダーの整備について、油圧ホースを交換し、シリンダー油約4リットルをオイルタンクに注入したのち、荷台を支えていた安全支柱を外したところ、荷台が落下し、被災者頭部を負傷したもの。また、右腕が荷台と車体の間に挟まれていた。	011701	221	7	1 ～ 9
5	8 ～ 10	災害発生地である商業施設には、段ボール回収のための段ボール庫が設けられており、1日2回、ごみ収集車による段ボール回収が行われていた。被災者は商業施設の外周清掃を行っていたが、ごみ収集車の後進中に段ボール庫の前に立ち入り、後進してきたごみ収集車に押された段ボール庫の扉と外壁との間に挟まれた。	150101	221	7	10 ～ 29
4	20 ～ 22	夜間、切羽面の水抜きボーリング作業が終了したため、ずり出し作業を行うこととなった。ずり出し作業を行うため、斜路に停車していた車両積載形トラッククレーンを動かさなければ、ずり出し作業が行えないため、車両積載形トラッククレーンの運転者が作業の邪魔とならない後方に真っすぐ後退させていた際、被災者を轢いたもの。	030102	221	7	30 ～ 49
4	16 ～ 18	被災者は、電飾の修理等を担当する労働者であるが、車検が終了したトラック（最大積載量19.9トン）の左側面にある路肩灯の不具合の修理の依頼を受け作業していたところ、別の労働者（営業担当）が当該トラックを発進させたため、トラックの下で作業していた被災者が轢かれたものと推定される。被災者は当該トラックが停車していた場所で倒れているのが発見され病院へ搬送されたが死亡したもの。被災者は腰や膝を骨折していた。	011701	221	7	1 ～ 9
4	16 ～ 18	除雪・融雪作業終了後、停車していたダンプトラックの荷台に作業用具を積み込む作業を行っていたところ、後退してきた凍結防止剤散布車とダンプトラックの間に挟まれた。	030199	221	7	10 ～ 29
0	0	被災者はトンネル補修作業のため2トンダンプトラック（狭い場所でも方向転換できるようダンプをジャッキアップして反転できる装置を備付えつけた特殊車両）にモルタルを積込み出発。後刻、積替え作業				1

3	～	が終了し、5～10度の勾配のある作業場にて上記装置を用いダンプを反転させたところ、下り勾配上を動きだしたものの。被災者がダンプを停止させようと車両に乗り込むも、間に合わずダンプとトンネルの側壁に体を挟まれたもの。	030199	221	7	～
3	～	被災者は、軽トラックと鯉の養殖池に設置された足場との間に挟まれた状態で通行人に発見され、搬送先病院で死亡が確認されたもの。				10
3	～	被災者は、事業場が所有している市内の鯉の養殖池の様子を見に行っていた際に、何らかの原因で軽トラックが動きだし、軽トラックのフロント部と足場に挟まれたものと推定する。	010102	221	7	～
2	4～6	被災者は、セメント運搬車の車体上においてセメントの積込作業を行っていた。墜落防止措置として、作業場所天井に設置された安全ブロックのフックを、着用していた胴ベルト型墜落制止用器具のD環に装着していた。積込作業終了後、安全ブロックのフックを装着したまま車両に乗り込み、発車したため、墜落制止用器具で腹部を強く引っ張られる状態となり、腹部周辺の内臓を負傷した。	040301	221	7	30～49
1	16～18	被災者は、事業場の敷地内において、9tダンプトラックの荷台を上げて、ダンプトラックに付属した荷台の降下を防止するためのストッパーを使用せずに車体と荷台の間に入り、荷台昇降用油圧ホースの付属部品を交換する作業をしていたところ、荷台が降下して挟まれた。	040301	221	7	1～9
1	12～14	事業場敷地内において、けん引車両とトレーラーを連結するために、けん引車両を後進させたが積雪により連結できなかったため、被災者がトレーラーの連結部付近で除雪作業を行っていたところ、けん引車両が後進して同車とトレーラーに挟まれたもの。	011701	221	7	30～49

出典：<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00.html>(職場のあんぜんサイト)